

令和3年度 県立水戸第一高等学校自己評価表

目指す学校像	○授業を中心とした、意欲的で活気ある学習活動を展開する学校 ○生徒が、特別活動(学校行事、ホームルーム、生徒会活動)、部活動など多様な活動機会の中で切磋琢磨し、能動的な経験を蓄積しながらたくましく成長できる学校 ○生徒一人ひとりの進路希望実現に貢献できる学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
【成果】 令和2年度(2020年度)の重点項目に関する11の重点目標の達成状況は、Aが0、Bが6、Cが4であり、総括的には目標を達成できたといえる。Aが0というのは、評価を見直し、ABCそれぞれの基準を厳格に当てはめた上での評価である。 進学状況については、国公立大学の現役合格者数が185名、過去20年で最多となった。既卒者を加えた国公立大学・準大学合格者総数は249名で、昨年から2名の増加となった。難関大学(旧帝国大学、東工大、一橋大)については、前年度は67名のところ、88名合格と増加となった。東京大学は現役20名、既卒3名で、23名となった。また、国公立大学・準大学の医学部医学科合格者は、全国的に厳しい入試が続く中、現役11名、既卒12名の計23名で、昨年より3名の増と健闘した。 特別活動については、部・同好会活動の加入率が9割を超えている。体育部は関東大会に陸上競技部が、文化部は全国大会に吹奏楽部と放送部が出場した。さらにホームルーム活動、生徒会活動も生徒の自主的な運営のもと、活発に行われている。学苑祭(文化祭)・クラスマッチ・歩く会の学校行事は、コロナ禍のため中止や規模縮小となってしまった。	教育課程の工夫改善と学習指導の充実	①新学習指導要領の告示及び大学入学共通テストを踏まえ、教育課程の再検討を進める。 ②ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ③コマ数を拡充した夏季課外を円滑に実施し、生徒の進路希望実現に資する学力の向上を図る。 ④60分授業の効果を高めるために、さらなる授業の質の向上を目指して、授業に係る研修機会の確保・充実に努める。		
	進路意識の高揚と確かな学力の養成による進路希望の実現	⑤難関大学(旧7帝大+東工大+一橋大)や国公立大医学部医学科等への進路希望実現を支援し、現役進学率の向上及び既卒生を含めた国公立大学合格者数の増加に努める。 ⑥卒業生の協力を得るとともに、大学や病院と連携して高い志を持って医学部に進学し、将来医師として社会に貢献できる人材の育成に取り組む。		
	健康安全指導の充実	⑦健康安全に留意し、心身ともに健康で、生き生きとした学校生活を生徒が送れるよう指導する。 ⑧職員が健康で職務に従事できるよう業務精選に取り組み、評価面談で確認する。		
	特別活動等の充実	⑨特別活動(学校行事、ホームルーム、生徒会活動)、部活動等の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。 ⑩学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。		
	【課題】 令和2年度から医学コースの設置、令和3年度は中高一貫教育校の開校となり、新たな校務分掌の見直しと検証が必要である。そのための情報収集及び情報の発信等、広報活動に努めるとともに、教職員の働き方改革についても引き続き推進する。	将来を見据えた教育活動の拡充、特に医学コースの充実や中高一貫教育校の円滑な運営	⑪社会の変化に対応し、本校から世界に羽ばたく人材、グローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献する人材の育成のため、中高一貫教育や医学コースの情報の収集と発信を行いながら組織の拡充に努める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
国語	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。			
	各科共通	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		
		国語の学習に対する意欲・関心を高める。	○授業方法を工夫改善し、教員相互に授業を公開するなど、随時教科内における研修等を行い、指導方法に対する研究を深めていく。 ○指導内容・方法・進度について、各学年の担当者間での打合せを綿密に行う。		
		基礎学力の定着を図り、段階的に難関大学入学試験に対応できる学力の養成を図る。	○小テスト等によって基礎学力の定着を図る。 ○新学習指導要領・大学入学共通テストに対応するための学習指導の在り方について検討を進めていく。 ○適宜添削指導を実施し、難関大学入試に対応可能な文章読解力と表現力の養成を図る。 ○副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。 ○定期考査について基本から発展までの設問構成を工夫し、平均点50～60点台の問題を考案する。		
	自立的な学習を促し、豊かな言語能力を持った生徒を育成する。	○課題等を生徒の実態に即して適宜与え、生徒が自主的に学ぶ姿勢を育み、段階的に自立的学習に移行できるよう促す。 ○読書意欲を喚起し、読書感想文コンクールへの取り組みを奨励する。			
	地歴公民	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。		
各科共通		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		
		綿密な教材研究や授業改善を図るとともに、大学入試問題の研究を継続的に行い、進路実現のための確かな学力を養成する。	○教員相互間での研修により専門性を高め、生徒の知的好奇心を喚起する授業の実施を目指す。 ○基礎・基本を徹底させるとともに、自ら思考する能力、資料を分析する能力、課題に取り組んでいく姿勢等を身につけさせる。 ○国公立大個別試験、難関私立大学試験、共通テスト等の分析を綿密に行い、授業、定期考査、校内模試等へ反映させることにより生徒の学力向上を図る。		
教科研修の充実によって、教員の授業力の向上をはかるとともに、新学習指導要領、中高一貫教育、評価方法の研究を進める。		○科目担当者間での授業の進度、指導方法など綿密な打合せを行い、課題意識を共有し、指導を充実させる。 ○ICT機器やソフトウェアの活用方法に対する研究を継続的に実施していく。 ○新学習指導要領、中高一貫教育に対する研究を継続的に実施していく。 ○生徒の学習活動・能力を的確に評価する方法の研究を実施していく。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。		
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		
	授業に積極的に取り組ませるとともに、自主的に数学に取り組む態度を育成する。	○低学年では予習復習を励行させ、教科書内容を定着させ、入試に必要な基礎力の定着を図る。 ○学年の進行とともに課題の在り方を検討し、低学年では課題等の提出を習慣化させ、高学年では自主的学習に移行できるように促す。 ○学年担当者間の連携を密にし、教材の精選と授業内容の充実に努めるとともに、多様な見方・考え方をを例示するなどして、数学に対する生徒の興味・関心を高める。 ○電子黒板などICT機器の実践事例やノウハウを蓄積し、職員間で共有し実践することで生徒の授業理解の深化を図る。		
	進路実現のための学力向上を図る。	○考査・試験の問題は精選検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○大学入試問題等を日頃から研究し、積極的に授業に取り入れ、大学個別入試および新テストに対応できる力をつけさせる。 ○大学入試問題分析会(東京大・京都大・東北大)を実施し、入試問題研究や教材研究により教員のレベルアップを図る。		
各 科 共 通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。		
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		
	知的好奇心を育て、科学的な思考力・判断力・表現力が身につくよう、教員の授業力の向上を図り、授業展開を工夫する。	○自然科学の様々な事象現象について深く考察し、科学的な思考力・判断力・表現力を身に付けられるように演示・生徒実験を多く取り入れる。 ○重要な図やデータの考察・理解にデジタル教材の活用を促し、知識の習得と整理がしやすくなるようにする。 ○最先端の科学技術について、授業内で適宜話題に出し、生徒に興味・関心を持たせられるようにする。		
理 科	確かな学力の定着を図ると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。	○基本的な原理・法則の理解を深め、さらに問題演習を重ねることで学力の定着を図るために演習量を確保する。また、校内試験ごとに解答の見直しをさせ、基礎学力および応用力の向上を図る。 ○国公立大学個別試験、難関私立大学試験の分析、また、大学入学共通テストに対応できるよう担当教員間での報告・連絡・相談を密に行い、授業や定期考査等に反映させることで学力の向上を図る。		
	新学習指導要領や大学入学共通テストに向け、研修の確保・充実に努め、教員の授業力向上・これからの時代に求められる教育のよりよい在り方に対する意識の向上を図る。	○新学習指導要領・大学入学共通テストに対応するための学習指導の在り方や校内模試の在り方など、これから本校の理科教育の在り方について検討を進めていく。 ○主体的な学びや対話的な学びの過程で、ICTを効果的に活用する。 ○ICTの活用などに際しては、教員間でのノウハウの共有化を図るなど研修の機会を設け、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。		
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		
	歩く会の高い完歩率を維持させる。	○集団行動における規律と態度を学ばせ、有意義な学校生活を送らせる。 ○体力の向上のために計画的な授業を構築し、完歩への意欲を喚起する。		
	体力テストの底上げを図る。	○本校生は筋力全般が弱いので、体育授業で毎時補強運動を実践する。 ○長距離走への積極的な取り組みにより、基礎体力の向上を図る。 ○本校性の弱い部分(投力)の強化向上を図る。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。		
保健体育	授業時のケガの防止に努める。	○運動の基本動作において、基本となる正しい動き方を身に付けることがスキルの向上のみならずケガの防止に繋がることを理解させる。 ○用具器具の使用について安全第一を心がけ指導する。 ○授業に臨むに当たり、健康観察、コロナ対策、熱中症対策、交通安全に努めると同時に、生徒にも健康安全に対する自意識の向上を喚起する。		
	「保健」とおとして心身の健康の保持増進を図る。	○「保健」を通じて、思春期における生徒の健全な成長を促し、地球環境における自らの役割を理解させる。 ○「保健」の授業を通し、思春期における自身の健康課題と社会的な課題における自身の役割を理解させる。 ○ICTの導入及び積極的活用を図る。		
	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。		
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		
芸術	鑑賞の機会を確保するよう努める。感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○校外学習等や校内での鑑賞会を実施して、より多くの作品に接する機会を増やし、本物だけが持つ魅力を体感させ、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 ○様々な作風・ジャンルの作品を取り上げ鑑賞させる事により芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。		
	自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。	○実技・実習の時間をできるだけ確保するとともに、その内容を精選し、工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○アクティブ・ラーニングを意識した能動的な学習を取り入れ、より活性化した授業展開を目指す。 ○自分の表現を発表する機会を増やし、その表現を生徒同士で共有し理解し合う場面を多く設ける。		
	新たな教材研究に努める。	○新しい展開を生むための教材研究に努めるとともに、教師自身が技術向上の研鑽を積み、高いレベルでの指導ができるよう努める。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。		
	充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。		
		○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。		
外国語	1年 4技能5領域の統合的な言語活動を通して、総合的な英語力の伸長を図り、実践的コミュニケーション能力の基礎を育成する。	○コミュニケーション英語Ⅰ:受容技能と発信技能のバランスのとれた指導を行い、英文を正しく理解し、コミュニケーションをとるための基本的な知識と技能を養成する。 ○英語表現Ⅰ:場面を意識しながら表現を学び、英作文等でそれを活用することにより、適切に自己表現するための土台を育成する。 ○サイドリーダーや総合問題集等の自主学習課題を授業の内容や評価と有機的に関連づけることにより、自律した学習者としての態度を涵養すると同時に、理解力および表現力の基礎を養成する。 ○試験問題の改良やパフォーマンス評価を通して、信頼性と妥当性のある評価を行い、学習の動機付けに資するような指導と評価の一体化を目指す。 ○1学年3月までに、実用技能検定準2級合格者80%(230名)、2級合格者25%(71名)を目指す。		
	2年 英語4技能を使った活動を効果的に行い、正確な英文理解力と表現力を中心に、実践的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。	○コミュニケーション英語Ⅱ:英語4技能を使った活動を効果的に行い、正確な英文理解力と表現力を中心に、実践的なコミュニケーションを行うための知識と技能を養成する。2学年終了時点で、CEFRB1レベルの力を獲得できるように指導を実践する。 ○英語表現ⅡA:英語で効果的に自己表現するための知識と技能を養成する。GTECグレード4～5に相当する具体性・論理性のあるまとまった英文を書くことのできる力を育成する。 ○英語表現ⅡB:教科書の比較的平易な表現を用いて、発展的かつ実践的な表現力を育む。ネイティブ・スピーカーが単独で授業を行う。 ○サイドリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、授業での指導内容と関連させながら、自ら英語を学ぶ力を涵養する。 ○テスト問題の改良や適切なパフォーマンス評価を実施して、生徒の英語力を正確に測るとともに、さらなる学習の動機付けに資するような評価の在り方を考える。		
	3年 英語4技能の習熟に努めながら、より発展的な理解力および表現力を育成する。	○英語表現Ⅱでは、1・2年次に培った文法力を土台とした、より正確に作文する技能を指導する。さらに、読んだり聞いたりした事柄について、自分の意見を論理的に表現する力を養う。 ○リーディング演習では、まとまった文章に対する正確で論理的な読解力や、要約力を高める。 ○英語表現Ⅱおよびリーディング演習の授業をとおして、大学入試にも対応できる総合的な英語力を養成する。 ○夏季課外や個別の添削指導などにより、個々に応じた指導に努める。 ○英検等の受検を引き続き促し、英語の実践的運用能力を高める。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
家庭	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	
	基礎・基本の内容を体験を通して理解させ、問題を見つけ、よりよい生活に変えていこうとする態度と生きる力を育てる。	○実験・実習内容を工夫と精選をし、知識と体験の定着を図る。 ○各分野における変化や問題を自分事として捉えられるように、高校卒業後の自分の人生に反映していこうとする態度が身につく授業の展開を図り、自ら学び自ら考える力を育てる。		
	各分野の関連性・重要性を見だし、日常生活と比較させることで、主体的・総合的に生きようとする意識・態度を育てる。	○夏休みに各家庭で実施するホームプロジェクトでは、4月からの授業の中で全員が計画的に進めていけるように支援し、日常生活の中の問題点・改善点を認識させ、生活の質の向上に結びつくように工夫する。		
情報	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	
	新学習指導要領を見据えた授業を実施する	○新学習指導要領の「情報Ⅰ」を意識した授業構成にし、次年度へ円滑な移行ができるようにする。 ○オンライン教材を導入し、プログラミング等で生徒がその習熟度に応じた学習ができるようにする。		
	学習活動を通じて、情報モラルに対する知識・理解を深め、適切に行動できるようにする。	○動画視聴や事例検証等を通して当事者意識を持たせ、情報モラルの着実な定着を図る。		
	プレゼンテーションにおける表現能力の向上を図る。	○生徒が各自のテーマに基づいてプレゼンテーションをおこない、それに対して改善点等を話し合うなど、より内容を深める活動をおこなう。		
	生徒が情報科で学んだことを、他教科の学習や特別活動に生かせるようにする。	○Google Workspace for Education等の活用について指導し、生徒が他教科の学習や特別活動においてもICT機器を有効に活用できるようにする。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	授業時間を確保する。	○自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。さらに、授業の曜日変更により、定期考査間の授業時数の均一化をはかる。また、昨年度より拡充した夏季課外を円滑に実施する。		
	授業内容のさらなる充実を図るとともに、併せてICTの活用を推進する。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、今年度より導入されたWIFIを利用した授業展開を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。		
	令和4年度以降の教育課程の検討をする。	○令和4年度から実施される新学習指導要領に基づいて、単位制を活用した、より教育効果の高いカリキュラムの構築を目指すとともに、大学入試制度の変更を踏まえて教育課程の検討を行う。また医学コースの設置や中高一貫教育校に向けて各教科・分掌と連絡を取りながら教育課程を検討する。		
	教育活動を公表する。	○学校説明会委員会や研究構想部と連携して、中学生対象の水戸一高説明会、学習塾対象説明会の実施により学校を公開する。また、同時に地域住民等に広く水戸一高の教育理念を周知する。		
	統合システムを円滑に運用する。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。		
	学校行事を各分掌、該当学年と連携して円滑に実施する。	○入学式・卒業式を、関係する学年や各分掌と連携、協力して円滑に実施していく。 ○新型コロナウイルス感染症拡大にともない、ICTを活用した儀式の実施など、今後も学校内外の状況変化に対応して各行事の企画・運営にICTの活用を図っていく。		
	奨学会関係の事業を、各分掌、各学年と連携して円滑に進める。また、同窓会との関係を深め、諸事業に協力する。	○奨学会との連携・連絡を適切に行い、奨学会総会並びに奨学会役員会の企画・運営を、各分掌、各学年と協力して円滑に進めていく。 ○保護者や学年への連絡・報告を適切に行い、様々な学校行事が円滑に進められるように内容を工夫改善していく。 ○同窓会との連携・連絡を適切に行い、諸事業に協力していく。 ○高等学校PTA連合会関連行事を用いて、本校教育活動の発信に努めていく。 ○併設中学校の保護者組織について検討を進める。 ○学校内外の状況変化に対応した各行事の企画・運営について研究を進める。		
	奨学金関係事務を適正に実施する。	○奨学金関係の事務および奨学生の選考に関する事項等を、ICTも活用しながら適切に行っていく。		
特別活動	学校行事を通じて、本校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実させる。	○各委員会生徒と密接な連携を図り、明確な活動計画の基で各行事の運営を行う。 ○天候やその他の理由により計画通りにいかない場合に、適切な判断ができるよう、あらゆる事態を想定しリスクに備えるとともに、柔軟な生徒へのケアをおこなえるよう準備しておく。 ○積極的な生徒会活動への参加を促し、主体的な運営ができるよう指導する。 ○学習活動や他の諸活動とのバランスをとり、学校行事の充実度85%以上を目指す。		
	部活動を通じて、豊かな感性と健全な心身を育む。	○部活動と学習活動を両立している生徒の割合、80%以上を目指す。 ○各部活動で、活動方針、目標、活動計画を策定し、活動の充実・成績の向上を目指す。 ○各団体の設備、備品の管理を徹底させる。		
	HRにおいてキャリア・パスポートを活用する	○各学年のHRにおいてキャリア・パスポートを作成し、社会の中での自身の在り方を考える。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒一人ひとりを深い自己理解に根ざした高い進路目標と導き、一人でも多くの生徒がその進路希望を実現できるよう支援する。同一年度の卒業生に関して、現役時と卒業後の合格者合計で、難関大学(旧7帝大+東工大+一橋大):80名、医学部医学科:25名、国公立大:220名を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2学年と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。 ○コロナウイルスの影響で不確定な要素があるが、生徒が大学のオープンキャンパス(WEBも含めて)に明確な目的意識のもとで積極的に参加し、得たい情報を自らすすんで獲得しその活用がはかれるよう、学年との連携のもとで事前・事後の指導を強化するなど、その指導の在り方の工夫に努める。 ○東大を含めた難関大の研究を通じて、「難関大研究会」の機能をさらに強化し、学年間の情報共有に努め、進路希望の実現に結びつける。 ○大学入学共通テストに関して、学年や教科と連携し、定期考査等での出題の工夫をはじめとして新傾向の問題へ十全な対応を進める。 ○医学コース関連のプログラムを円滑に実施し、キャリア教育と学力増進の両面で医学科を志望する生徒への一層の指導の充実を図る。 		
	学年との連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ○学年と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努める。保護者に対しては、保護者対象の進路講演会や医学部進路講演会等も実施し進路情報の提供に努める。 ○生徒・保護者・教員の3者にとってより有益なものとなるよう「進学資料」、「進路の手引き」の改善を進める。 		
	生徒のデータを、3年間通して見渡せるような進路情報システムについてさらに改良を進め、それらの情報・データを職員間で共有できる環境を整備し、一層の進路指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間の学習成績と最終的な大学の合否がリンクした形でのデータベース「佐々木システム」について、今年度も新たにデータの更新を行い、職員研修等を実施し、進路指導における有効活用をはかる。またこのデータベースを活用して指導に有効と思われる出力形態についても研究を進め、活用の中を広げていく。 ○現役時はもちろんのこと浪人した生徒も含めて、進路確定まで継続的な指導を行う。 		
研究構想	「チャレンジ・プロジェクト」(プロジェクト「図南2」-21世紀型スキルを備えたリーダーの育成-)を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○「心に火をつけるフォーラム」、「社会人インタビュー」、「校風の理解(講演会)」、「大学模擬講義(5教科主催)」等の行事を通して、自分の在り方や生き方、進路について考えさせる。 ○課題研究や「知道プロジェクト発表会」を通して自ら課題を発見し、多様な視点から論理的に考察する力や自らの考えを他者に上手に伝える力を培う。 ○将来リーダーとして社会貢献のできる人材育成を目指す。 		
	教員の授業力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○「新任者授業見学会」、「校内授業公開」による校内での実践研修および、「筑波大学附属高校等の教育研究大会」、「駿台教育研究所の教育研究セミナー」等による校外での指導法研修を行い、質の高い授業を研究する。 ○「校内教員研修会」、「県外進学校視察」等を行い、難関大学進学指導やHR経営等の知識やノウハウを蓄積・継承する。 		
	開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○中高連携や、高高・高大連携を推進し、相互に連携・交流を深める。 ○「学校公開」や「道徳公開授業」を行い、本校の教育活動や取り組みを広く周知する。 		
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な探究の時間」を通して進路意識と探究心を刺激し、自らの将来像を考えさせる。 ○「道徳」「道徳プラス」を通して、道徳的判断力や道徳的実践意欲・態度を育成する。 ○『学習のしおり(シラバス)』、『課題研究優秀論文集』、『海外派遣プログラム報告書』、『紀要』、『本校独自の道徳ノート』を作成し、3年間を見通した学習の計画や1年間の教育活動の振り返りに資する。 		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	○挨拶の励行。特に来校者に対しては、積極的に挨拶をするよう指導する。 ○校外・地域等に進んで貢献・奉仕しようとする意識を持たせる。 ○規範意識を高め、水戸一高生として誇りの持てる行動をするよう指導する。		
	学校生活の安全を図る。	○思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高生としての自覚と責任ある行動をとるよう指導する。 ○各学年・保健厚生部・養護教諭との連携を密に、生徒の状況を正確に把握し、生徒の心身の健全な育成を目指す。 ○インターネット依存症防止のために、スマートフォン等の適切な使用法を指導する。 ○インターネット上で個人やグループに対する誹謗中傷や、SNSでのいじめ、仲間はずれ、個人攻撃などをしないよう指導する。		
	交通安全の意識を向上させる。	○自転車は車道の左側通行など、交通法規の遵守を徹底させる。 ○自転車による交通事故ゼロを目指す。通信機器等を操作しながら、またはイヤホンを使用しながら運転をしないなど、安全な自転車の乗り方を指導する。		
	いじめ問題に適切に対応する。	○いじめの未然防止にいつそう努め、いじめのない学校を目指す。 ○いじめを早期発見するために、各部署との連携を図り、職員全体で情報を共有する。 ○教職員対象の校内研修を実施し、いじめに対する意識を高める。 ○インターネットの適切な利用を指導することで、インターネット上のいじめを防止する。		
情報	ICT機器の整備・管理・運用を適切に行う。	○GIGAスクール構想に基づき、校内におけるICT機器を適切に配備する。 ○内規や管理室(仮称)の整備により、ICT機器の適切な管理・運用をおこなう。		
	学校Webページの充実を図る。	○教員間の連携を密にし、情報の発信が迅速かつ正確に行えるようにする。 ○Webページのレイアウトや項目等を見直し、生徒の活動の様子がより見やすく、効果的なものになるようにする。		
	教育の情報化へ向けた支援活動を行う。	○新学習指導要領の実施に向け、各教科が教育の情報化を進められるように、ICT機器(タブレット、電子黒板等)やソフトウェアにおける支援を進める。 ○職員室の自席で先生方がPCを用いた作業ができるように、環境整備を進める。 ○他分掌、学年との連携を強化し、情報部として可能な支援を引き続き推進する。 ○個人情報の管理やウィルス対策等の注意喚起・情報提供をおこなう。		
	効果的な学校評価アンケートを実施する。	○質問項目を見直し、より一層学校運営に生かせるようにする。 ○アンケートのペーパーレス化を進めるとともに、保護者からの回収率を上げる方策を実施する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書	自ら課題を発見し学ぶ生徒を支援する図書館として一層の充実を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○図書管理・検索システムのアップデート情報に留意し必要な場合は適用を検討する。 ○教科からの授業内容に関連する推薦図書情報を得て、レファレンス・展示等をおこない、貸出し利用に繋げる。 ○選書について、多様な興味関心をもつ生徒にできるだけ沿い、中学生向け選書にも配慮をしてゆく。 		
	読書体験ができる機会を設け啓発し、読書に親しむ生徒の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間(課題学習)での利用をはじめ、生徒一人ひとりの学習で一層の図書利用が進むように館内POP展示・新蔵図書紹介を進める。 ○読書会、ビブリオバトル等のイベントを感染状況に留意しつつ開催する準備を進め、生徒どうしの読書体験の共有・啓発運動を行う。 ○各種読書コンクールへの積極的応募を勧め、読書への興味をさらに高める。 		
	生徒委員会活動のさらなる活発化を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日のカウンター当番等を活動の基盤としながら、生徒委員の学苑祭・読書会運営、機関誌編集などを主体的に運営できる生徒の育成をめざす。 ○感染拡大により、大きな活動やイベントができないときに備え、より小さな生徒単位で行える効果的な方法について検討、実施を進める。 		
	機関誌を着実に発行し、本校の歩みを正しく記録する。	<ul style="list-style-type: none"> ○年報の発行に向けて、編集方針検討や資料収集作業を着実に進行。 ○図書館報2誌の制作を計画的に行い発刊する。 		
保健厚生	学習環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、当分新型コロナウイルス感染症防止のため、教室等のゴミ箱が使用禁止のため、ゴミの持ち帰りを徹底させる。 ○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査、ダニの検査を実施する。 ○モップ交換や普通教室のカーテンのクリーニング、ワックスがけを行う。 ○施設・設備の安全点検を行い、環境の安全の確保を図る。 ○中高一貫に伴い、カウンセリング室の整備を継続して行う。 		
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○健康診断や保健室利用時などの機会をとらえて、保健指導を行う。 ○事故・怪我等がないように、注意を払いながら学校生活を送るよう指導する。 ○新型コロナウイルスをはじめとする感染症に対する予防を徹底するよう指導する。 ○各学年、生徒指導部、スクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒の心身の健全な育成を目指す。 ○健康に関する情報提供のための「保健だより」を、毎月1回発行する。 ○災害時における避難訓練を中高合同で行い、校内の状況と避難経路を確認し、防災に対する意識を高めるよう指導する。また、休日や校外においても緊急事態に対応できるよう意識づけを図る。 		
1学年	基本的な生活習慣の養成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶を中心とした、誠実な態度を身につけさせる。 ○自主的な時間管理を意識させ、時間の大切さを再認識させるとともに、時間厳守を心掛けさせる。 ○規範意識を醸成し、高めさせる。 		
	自主自律的学習習慣の養成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○各種進路行事に参加させ、進路意識を高めさせる。 ○各教科主催の大学模擬講義、数学オリンピック等への積極的な参加を促し、刺激を与え、知的好奇心を高める。 ○予習・授業・復習の学習サイクルを徹底させる。また、家庭学習時間を確保させる。 		
	特別活動への積極的参加を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事、部活動、委員会活動への積極的な参加を促す。 ○各種大会への積極的な参加を促す。 		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2. 学年	基本的な生活習慣の養成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶、時間厳守の大切さを各ホームルーム、学年集会などで話し、実践できるようにしていく。 ○傾聴力を養成し、人の話をしっかり聴き、落ち着いて行動をすることができるようにしていく。 ○定期的に生徒面談を実施することにより、個別の生徒への対応を丁寧にしていく。 		
	高い進路目標を掲げ、自主的に学習に取り組む習慣の養成を図る。自ら課題を見つけ、解決していく能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○各種進路行事に積極的に参加をさせることで進路意識を高めさせる。 ○各教科主催の講演会、数学オリンピック、科学の甲子園に積極的に参加をさせ、知的な好奇心を高める。 ○週末課題、長期休業時の課題を用意し、家庭学習時間を確保させ、基礎基本の徹底を図る。また、学校からの課題だけでなく、段階的に自発的な学習に取り組めるように促す。 ○1年次の探究学習を発展させた課題研究に、十分取り組むことができる機会を設ける。 		
	特別活動への積極的参加により、強い精神力や協調性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事、部活動、委員会活動への積極的参加を促す。 ○各種大会へ積極的参加を促す。 		
3. 学年	進路実現にむけ主体的な学習の実践を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○進路情報を精査し、高い進路目標を設定するための指導・支援。 ○授業を中心とした主体的かつ計画的な学習の促進。 ○新しい社会の中での進路実現にむけた意識醸成のための指導・支援。 		
	親和寛容の精神を涵養し、精神的自律を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感を高め、個性を活かすための支援。 ○個性や才能を伸ばし社会貢献しようとする進取の精神の獲得にむけた指導・支援。 ○社会の一員としての教養と品格を獲得するための指導・支援。 		
	規範意識および基本的な生活習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい社会構造のなかでも通用する普遍的な規範意識確立のための支援。 ○学校生活における時間厳守、挨拶・清掃活動の励行促進。 		

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない